

令和2年度 中央区立有馬小学校 外部評価報告書

外部評価委員：中野耕佑、宮崎弘次、矢川春文、深山健太郎、中多宏之、坂野泰士、森功次、
宇多清二、吉岡輝元、鈴木一也、株本光子、細谷美明 ※敬称略

報告書作成者：細谷 美明

評価時期 令和3年3月

1 重点目標の評価

重点目標1について(コロナ感染拡大防止のための安心・安全な教育活動)

6月以降のコロナ対策については、学習指導等の本来業務をこなしながら試行錯誤を繰り返して児童の健康安全を図ってきた。コロナ対応に対する保護者からの評価も高く、児童も教師の指導によく従い無事に学校生活を送っている。ただ、授業時間の大幅な削減などただでさえ教育活動全体に支障が出たことは学校に対し同情を禁じ得ないが、今年度の対応を冷静に分析し、来年度はコロナ感染の状況に柔軟に対応し行政との緊密な連携のもと学校本来の健康安全教育を推進することを期待している。

重点目標2について(確かな学力の定着)

2か月間の休校や6月始業といった制約を受けての環境の中、学習指導に関し効率的に指導を進めてきた。今年度から始まった新学習指導要領の下での「主体的・対話的で深い学び」に関しては、教員格差がみられたが、来年度以降は学校全体で情報交換等をしすべての教員が円滑に授業改善ができるよう努力してほしい。また、新たに導入されたタブレットの活用についても個人差が大きく、来年度の本校の大きな課題であることは明白である。

重点目標3について(「有馬スタンダード」を活用した生活習慣の定着と体力向上)

今年度、閉塞感が漂う日常生活の中、心の安定と体力の向上に対しその実施には厳しいものがあつたと推察するが、児童一人一人の声によく耳を傾け保護者の意見も積極的に聴取するなど児童指導の徹底を図っている。大きな事故もなく安堵しているが、コロナ禍の影響によるストレスや情緒の不安定さがもたらす児童の状況に油断は禁物である。今後も引き続き家庭とも綿密に連携を図り心身とも健康な児童の育成を目指してほしい。

2 今後の改善に向けた意見

学校行事でも言えるが、今年度十分取り組めなかった学習指導を中心とした教育活動の充実を目指してもらいたい。特に新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業改善とタブレットなどICTの活用を柱に研究・研修に尽力してもらいたい。また、校内においてその割合が増えている若手教員の育成については管理職をはじめとする中堅以上の教員の指導を充実するとともに、若手教員は比較的ICTに関するスキルを有していることから、彼らを生かした校内研修も視野に入れたOJTの充実を図ってもらいたい。

3 その他の意見

令和3年4月以降のコロナ感染の状況については予断を許さないが、その対応については今年度でそのノウハウを蓄積したものとする。特に、コロナ対策で教員の本来業務に支障が出ないよう、教育委員会にはハード・ソフトの両面において学校支援を推進してもらいたい。